



# あすぴあ通信



しらべて  
みました

発行：小平市民活動支援センター あすぴあ

## 農のあるまち こだいらのミドリ

1面：農のあるまち こだいらのミドリ

2～3面：あすぴあ登録団体&市民活動団体紹介

4面：イベント予告・講座報告 ほか



「小平市の好きなところは？」市民参加の会議で高確率で出る質問です。そして、ほとんどの参加者が「ミドリが多いこと」を挙げます。ミドリについてしらべてみました。

小平の西側・小川町の畑では、「畑を楽しむ会」が無農薬でナスやキュウリ、オクラなどの野菜を育てています。そもそもは小平・環境の会がごみ削減のために生ごみ（学校給食の残渣乾燥処理物）から堆肥をつくり、その堆肥を活用する活動としてはじめられたものです。面白いのは畑に綿も植えられていて、綿花を使ったものづくりまでを「コットンクラブ」と呼んで楽しんでいること。

またその隣の畑では、理学博士の柳下登先生が育成したピートン（ピーマンとトウガラシを接ぎ木交配した新種）の栽培を手伝う市民、学生混合のグループが一緒に汗を流しています。柳下先生はピートンを使って小学校で食育を行ったり、市民を対象としたイベントも開催しています。（坂）

5月から7月開催の「ガーデニングコンテスト」「グリーンフェスティバル」「ごみゼロフリーマーケット」などのイベントに大勢の市民が集います。また、農家の野菜直売所も魅力です。「市民菜園切替時における応募状況」\*1によると、どの菜園も区画の数に対して応募総数の方が多いことがわかります。菜園に通ってみると、工夫を凝らして野菜を育てている人たちに出会いました。（利用者の声参照）

農地はといえば、相続による大規模農地売却でミドリが減り、一部を公園にと望む市民は残念に思っています。一方、新しい法律\*2ができて農地が借りやすくなったことから、日野や八王子では本格的に農業をはじめの人たちがいたり（新聞記事から）、小平でも農業をはじめた若者がいます。

北欧ではミドリの活動を通してコミュニティづくりやまちづくりが自然に行われているということです。小平でもミドリに関心がある市民が、それぞれの意見を気軽に持ち寄る場ができないだろうかと思いました。（谷）

### ●市民菜園利用者の声から●

「一度肥料を入れただけなのに、こんなに育って」「もとは農家のせがれだからネ」「まわりのベテランに教えてもらって。楽しいよ」「こんにちは」と外国人の親子。「最初は欲張ってたくさんつくったけど、最近は少ない」「もっと広いと株間をあけて植えられるのに」「いつもは妻が世話を。今日はわたしが」「育て方を漫画で描いた本があるんだよ」「顔見知りができる」

\*1 市民協働・男女参画推進課コミュニティ担当

\*2 正式名は「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」平成30年

○あすぴあで借りられる本

『ダダダダ菜園記 明るい都市農業』伊藤礼・著 ちくま文庫  
『イエンスの庭時間』イエンス・イエンセン・著 学研  
『誰も農業を知らない』有坪民雄・著 原書房



一緒に畑、耕しませんか？



ピートンはこんなに大きく成長

